

算数担当が、算数を教えつつ、いろいろなことを考えてみました。

$\pi=3.141592653\dots$

No.16：わり算の「あまり」について考えてみた

令和7年7月22日
墨田区立柳島小学校
校長 近藤 幸弘
柳島小学校算数担当

●わり算の「商」と「あまり」の単位を正しくとらえましょう。

先日、区一斉研究日があり、二葉小学校3年生の算数の授業を拝見しました。「あまりのあるわり算」の授業で、文章題を扱っていました。

あまりのあるわり算として、「 $17 \div 5 = 3$ あまり2」を例として挙げます。同じ計算処理でも、文章題では次の3パターンがあります。①～③の違いを考えてみてください。

①17個のチョコレートを5個ずつ箱に入れます。箱はいくつ必要で、チョコレートは何個余りますか。

②17人の子供がベンチに座ります。このベンチは5人まで座れます。全ての子供が座るには、このベンチはいくつ必要ですか。

③17枚のくじ引き券があります。5枚で1回くじを引くことができます。何回くじを引くことができますか。

①は、商と余りを問われています。「箱は3つ必要で、チョコレートは2個あまる」となります。では、②③はどうでしょうか。問題文に「あまり」は問われていません。しかし、②なら「ベンチは3つ必要で2人座れない」と答えてしまう間違いが多いです。

「あまり」をどう考えるかが、子供にとっては難しいようです。

正しくはこうなります。

② $17 \div 5 = 3 \dots 2$
人が 人ずつ座る ベンチは 3 つ必要 まだ 2 人座れない
この2人も座るためのベンチが1つ必要。

だから「ベンチは4つ必要」となります。

③ $17 \div 5 = 3 \dots 2$
枚のくじ 枚で1回引ける 3 回引ける くじ引き券は 5 枚で1回引ける まだ 2 枚あまる
2枚ではくじを引けない

だから、「くじを3回引ける」となります。

このように、「あまり」を正しく処理するには、商とあまりの単位を正確にとらえることが必要です。しかし、子供の様子を見ていると、「 $=$ 」の右に数が2つあるため、何の量なのか混乱することが多いようです。これもまた、「本質」を表していると思います。扱う数を「物理量」としてとらえてそれが何を表しているのかを正確につかむ…1年生から学習していることです。「単位」がいかに大切かがわかる事例です。